



はじめに

- この配布資料は、令和3年4月、島田市社会教育委員が島田市教育委員会からの諮問「家庭教育の在り方」に対して答申した提言書の乳幼児・未就学児編です。全編については本冊をご覧ください。
- 内容は、第1章「子供のライフステージと家庭の役割」と第2章「家庭教育に悩んだ時の『処方箋』」で構成されています。
- 家庭教育のすべてを網羅してはいませんが、大筋は述べていますので、子育てをするお父さん、お母さんの家庭教育における羅針盤としてください。
- 子供とともに成長しませんか！

第1章「子供のライフステージと家庭の役割」構成

乳幼児期～肌を離さない	たくさんの愛情を受け取る場
未就学児期～手を離さない	家族から認められる場
小学生前期～眼を離さない	家族や集団のルールを学ぶ場
小学生後期～眼を離さない	自分の良さを感じ役割を理解する場
中学生～心を離さない	社会の一員として責任を自覚する場
高校生～心を離さない	大人として将来の自分を考える場

乳幼児期～肌を離さない～

- 赤ちゃんは、親を育てるために生まれてきました。
- お父さん、お母さんとして歩むスタートです。
- 赤ちゃんと一緒に成長しましょう。
- 子供は愛を食べて育ちます。
- 肌を離さず愛情いっぱい育てます。



☆家庭は「家族それぞれが役割を補う場」

◇父親、母親になる準備を

- ・ 妊娠期から情報を集め、講座にも参加しませんか。
- ・ 地域子育て支援センターをマイ支援センターとして登録しましょう。
- ・ 健康づくり課では担当保健師さんが相談にのってくれます。



◇お互いに声を掛け合い役割を補う

- ・ お母さんは、母親として赤ちゃん中心の生活になります。
- ・ 夫婦お互い暖かい言葉を掛け合い、役割を補い合いましょ。
- ・ お父さんお母さんの笑顔が子どもの健やかな成長に欠かせません。



☆家庭は「赤ちゃんがたくさん愛情を受ける場」

◇赤ちゃんにはたくさんの話しかけを

- ・ お母さん、お父さんの声は何よりも赤ちゃんが安心する音です。
- ・ 子守歌など心地よい音(声)は、脳の発達を促すそうです。
- ・ 体をやさしく触ったり、そっと揺らしてあげると喜びます。



◇歩けるようになったら野外へ

- ・ 家の近くを散歩など、小さなお出かけを楽しみます。
- ・ 草や花など身近な自然に触れながら、お話できると楽しいですね。
- ・ 地域子育て支援センターの「赤ちゃん講座」などの行事にも参加してみたいかがですか。
- ・ お母さん同士のつながりができるといいですね。



☆家庭は「赤ちゃんがたくさん愛情を受ける場」

◇ゆったりした気持ちで子どもとの付き合い

- ・ 少し大きくなると、言うことを聞かなくなる時があります。
- ・ これは、「自我の芽生え」であり、「成長の証」です。
- ・ ゆったりとした気持ちで付き合うことが大切です。
- ・ できるだけ「ダメ」と言わないために、危険から避ける工夫を。



◇集団に入る準備を

- ・ トイレ使用、箸やスプーンの使い方、あいさつなど事前トレーニングを。
- ・ 大人が手本を見せると真似しながらできるようになります。
- ・ 焦らないで、できた時には褒めてあげます。



☆家庭は「赤ちゃんがたくさん愛情を受ける場」

◇絵本の読み聞かせを

- ・ 子どもの想像力や思いやりは、絵本を読んで聞かせることで育ちます。
- ・ 子どものその経験は、「愛されている」という実感として伝わります。
- ・ 子ども向けの絵本は、図書館やおはなしの会などで紹介しています。



◇顔を合わせての相談の機会を

- ・ 乳幼児期の子どもは、目覚ましく成長し、毎日が新しい発見です。
- ・ その分戸惑いや心配事が出てくるでしょう。
- ・ ネットには様々な情報がありますが、必ずしも正しいとは言えません。
- ・ 子育て応援課の子育てコンシェルジュ、地域子育て支援センターの保育士、「子育て広場」に来る市のペアレントサポーター、健康づくり課の保健師など、実際に顔を合わせて相談してみてください。



【コラム】語りかけることの重要性

- お父さん、お母さんは、「子どもはいつも栄養を必要としている」ことを知っていますか？ その栄養とは「愛情」です。子どもは、お父さん、お母さんの言葉、仕草、食事、肌の触れ合いから「愛情」を受け取ります。
- 子どもは「注意深い観察者」です。御両親の言葉、仕草、愛情の示し方を聞き、見、それを正確に繰り返します。子どもは、家庭で生活を支える様々な事物や技術を身に付けていくほか、ものの見方、考え方なども獲得していきます。
- 子どもの一生を支える基礎は、家庭が育むものなのです。
- その中で最も重要なことは、お父さん、お母さんが子どもに語りかけ続けることです。時間も精神的余裕も足りないお父さん、お母さんが「愛情」を我が子に注ぐことは、本当に大変なことでしょう。しかし、愛情を注ぐことで、子どもの一生の基礎ができます。その何十年後には、子どもは自分の人生を生きていくことができるようになるでしょう。

未就学児期～手を離さない～

- 自己主張も強くなり、親をてこずらせることもあります。
- やみくもに叱るのではなく、「なぜいけないのか」「どうしてほしいのか」をわかりやすく伝えます。
- 親としての心がまえを学び、手を離さないようにします。



★家庭は「子供が自分でできることを増やして、家族から認められる場」

◇自分でできるまで焦らずに待つ

- 子どもが自分のことを自分でできるまで時間がかかります。
- 最初は手伝いながら、「ここから自分でやってみる？」と促します。
- 自分でできると、やりきった自信につながります。
- 大人は焦らず付き合い、できたときはたくさん褒めてあげます。



◇家族の一員として、簡単なお手伝いを任す

- 自分のことが少しずつできるようになったら、簡単なお手伝いを任せます。
- 最初はうまくいなくても、手を貸し、励まし、できたことを褒めましょう。
- 「みんなが助かるよ！」と伝えると家族の一員であることを自覚できます。



◇子どもの小さな要求に応える

- 「見て、見て！」と親の気を引くような態度は、自分を見てほしいという気持ちの表れです。
- できるだけ子どもの小さな要求に応じて、子どもを満足させてください。
- 子どもも安心して親の言うことに耳を傾けるようになるでしょう。



★家庭は、「家族が協力し合い、互いの役割を担う場」

◇夫婦で仲良く話し合い

- どんな大人になってほしいのかとか、夫婦の役割などを話し合ったり、互いに感謝の言葉を口にしてみてください。
- 仲の良い夫婦でいることは、家庭を温かにし、子どもは安心して生活し、子育てを豊かにします。



☆家庭は、「家族が協力し合い、互いの役割を担う場」

◇親としての心がまえ、子どもと接し方を学ぶ

- ・自分の感情コントロール、子供に伝わりやすい言葉などの、心がまえや、子供への接し方を学びましょう。
- ・「島田市公式LINE」に登録し、「子育て応援サイト『しまいく』」などから情報を集め積極的に参加しましょう。



◇子どものストレスを理解する

- ・幼稚園、保育園など集団生活に入り、新しい環境に疲れたりストレスで乱暴になったりすることがあります。
- ・お母さんとの二人だけのスキンシップ、お父さんと外でのんびり遊んで落ち着くことがあります。
- ・困ったら、早めに幼稚園・保育園の先生や先輩パパ・ママに相談を。



【コラム】～共に～ともに喜び、ともに悲しむ

- ・人びとの暮らしが多様化している現代にあっても、ともに暮らす家庭を大切にすることは、家庭教育の柱です。「ともに」という漢字「共」は、大切なものを両手に、うやうやしく捧げ持つ姿を象っていて、片手ではなく、両手が添えられているところに、大切にしている様子が窺えます。
- ・子どもの良いところは、誉めてあげたいくなるものです。それを、我が子として「ともに喜ぶ」ことによって、喜びは倍加します。おまけに、「ともに喜ぶ」と、子どもは、自分に欠けているところを良いものに変えていこうとする意欲をかき立てられます。
- ・子どものいけないところは、叱りたくなりますが、それを、我がこととして「ともに悲しむ」と、悲しみは、半減します。おまけに、「ともに悲しむ」と、子どもは、自分がいけなかったということに自ら目覚めていきます。「ともに喜び、ともに悲しむ」ことは、結局のところ、ともに暮らす家庭を大切にすることにもつながるでしょう。

第2章 「家庭教育に悩んだときの『処方箋』」の構成

- ① 新たなメディア(スマホ等)との付き合い方に悩んだら
- ② 叱るとき、手を上げそうになった時は
- ③ 社会情勢が厳しくなる状況での子どもへの接し方
- ④ “いじめ”に悩んだら
- ⑤ “問題行動”や“発達障害”に悩んだら

【処方箋1】 新たなメディア(スマホ等)との付き合い方に悩んだら

- ・ スマホのような“新たなメディア”の問題の中に、**金銭的・性的・心理的被害の可能性**があります
- ・ スマホが社会に登場してから歴史が浅く、**スマホが持つ社会的特性もまだ社会に浸透していないし、利用方法や危険性も十分に認知されていないのが問題です**
- ・ **子どもにスマホを持たせる際**
→子どもとのコミュニケーションを充分取り、**スマホを持つことで生じる利便性、危険性と責任を、親子で十分に話し合いましょう**

【処方箋2】叱るとき、手を上げそうになった時は

- 「子どもは親の絶対的な支配下にあり、全て親の意のままに行動しなければならぬ」と思っていますか？
* 子どもは親の所有物ではなく、一人の独立した人格をもつ存在
- 「親の言うことを聞かない」「親の思ってもいないことをする」と思っても、子どもの立場に立つと、子どもの行動や主張をある程度理解できることもあります
- 子どもを叱りたいとき、手をあげそうになった時は、一呼吸おいて、まずは自分の心を静めましょう
- 子どもが親に何を訴えたいか、一呼吸置くことで、心に浮かぶことも

※現行の「児童虐待防止法」と「児童福祉法」では、「児童のしつけに際して、体罰を加えてはいけません」と明記されています。

【処方箋3】 社会情勢が厳しくなる状況での子どもへの接し方

- 子どもは、親の分身ではなく、子どもには一人一人個性があります
- 子育ての仕方は千差万別、複雑な環境の中で、子どもに教育を施していく必要があり、親が子どもとじっくり向き合うことが必要です
- 親を取り巻く環境はますます悪化している中でも、可能な限り子どもと向き合い、子どもの個性を理解してほしいです

【処方箋4】“いじめ”に悩んだら

- 子どもの変化が“いじめ”によるものならば**放置しておけません**
- **子どもの様子や、食事の様子に気を配り、親が自ら子どもの変化を掴んでいくことが重要です**
- 相談先としては、まずは学校（学級担任、学年主任、生徒指導担当、部活動顧問、管理職の先生やスクールカウンセラーなど、様々な相談相手がいる）
- 子どもの心のケアを含めて島田市の教育センターに相談するのも一つの方法です

【処方箋5】“問題行動”や“発達障害”に悩んだら

- 問題行動、発達障害やその二次障害等々の問題についても、早めに相談し、対応していくことが大切です
- 後になればなるほど解決できない問題になっていきます子どものために相談を
- 相談先としては、まずは学校（学級担任、学年主任、生徒指導担当、部活動顧問、管理職の先生やスクールカウンセラーなど、様々な相談相手がいる）

- ※報告書市公式ホームページ掲載箇所URL
- <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/shakaikyoikuinkai.html>

- ※報告書市公式ホームページ掲載箇所QRコード

-

